

# 空

一年

画数 8  
筆順  
クウ

そら・から・あひくひける

成り立ち



「あなぐら」のかたちをあらわし、「あな」といういみをあらわした「宀」と、「ものさし」のかたちをあらわした「工具」のいみの「工」とをくみあわせてつくった字で、「工具をつかって」穴をあける「こと」をあらわしたものです。「空ける」といういみの字です。

空けたところはなにもないので、「空」といいます。また、「空」というのは、あおくみえるだけで、なにもないところなので「空」というのです。

「工」という字は、漢音はコウで、呉音がクです。だから、「空」という字は、はじめは「ク」とよみましたがおきょうでよくつかわれることばで、「クー」とのばしてよんだため「クウ」となったものです。

使い方

▽よくはれた「青空」を、ばくおんをたててジャンボの「航空機」がとんでいきました。

▽「空きびん」がほしいので、のみたくもないのにジュースをのんで、びんを「空」にしました。

熟語例

▽青空（青い空。じゆくごのときは、「そ」が「ぞ」にかわります。）

▽航空機（「空を航行する機械」といういみのことばで、「飛行機」のこと。）

▽空き家（「空いている家」。すむひとのいない家）

▽空き地（たてものがたっていない土地）

▽空くじ（「はずれくじ」。なにもあたらなくじ。しようひんがもらえないので「空」といいます。）

▽空車（「空の車」。おきやくがのっていない車や、荷もつをのせていない「荷車」のことをいいます。）

▽空想（じっさいにありえないことを想像すること。）

▽空論（じっさいにありえないことを議論すること。）

▽空前（いまより前にはまったくなかったこと。はじめのことをいいます。例 空前のできごと）

使い方

▽お月さまの光のことを月光といいます。

▽としのはじめの月を正月といいます。

熟語例

▽お月見（八月十五日と九月十三日の月はとくべつにつくしい月といわれて、むかしからかぞくそろって月を見るしゅうかんがありました。）

▽明月（明るい月、といういみのことばで、十五夜八月十五日の夜、十三夜九月十三日の夜、の月のことをいいます。）

▽月給（一月のはたらきにたいしてはらわれる給金。月給のこと。）

▽月謝（一月のしどうにたいする謝礼のお金。じゆぎょうりよう）

▽歳月（歳はとし、年月とおなじことば。また、月日とおなじいみにもつかいます。さらに、「とき」のいみ）

▽満月（まんまるいかたちの月。十五日の月。むかしは「もちづき」といいました。）

▽二日月（みちはじめて三日めの「ほそい月」）

# 月

一年

画数 4  
筆順  
オン  
クン

リ月月  
ゲツ・カツ  
つき

成り立ち



お月さまのかたちをあらわした字で、「お月さま」のいみをあらわしたものです。

月は、まんまるいかたちが、まいばんかけていき、すっかりくろくなると、こんどはだんだんふくらんでいき、またまんまるくなります。このあいだが三十日かかりますので、三十日かを「一月」といいます。

むかしのこよみは、月のみちかけをもとにしてつくりましたので、月のかたちで日がわかりました。みちはじめが一日（月たちといういみ）で、まんまるになるのが十五日、まっくろになるのが三十日でした。